



『信仰生活の中で最も大切な事①』

本日聖書本文:マタイの福音書16章13-17節・暗唱聖句:ローマ人への手紙10章9-10節

説教者:鄭南哲牧師

愛する主にあるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

新年明けましておめでとうございます！一週間お正月休みの時はご家族とよく休めましたか。

今年もみなさんの御家庭と職場の上に神様の豊かな祝福と御恵みが満ち溢れますように切にお祈り致します。一週間も多事多難だった2014年も過ぎ去り、また新しい2015年新しい新年を迎えながら、また神から新しい時間、チャンス、機会を頂いています。みんなそれぞれ、また新年に新しい希望、望みを持っていらっしゃると思いますが、また預けられた新しいこの2015年にはみなさんは何を大切に、優先順位を立てて行きたいと願っているでしょうか。ある方は健康を、ある方は経済的なことを、ある方は子供教育を、ある方は仕事を、ある方は人間関係、学生たちはこれからの進路や勉強など大事に、大事に保ちながらまた精一杯、頑張っ行ってきたいと思っているかも知れません。

そしたら、みなさん！信仰生活において何が一体大切だと思っていますか。祈り、奉仕、伝道、礼拝、御言葉など色々考えられますよね。今日の聖書の御言葉を通してイエス様が弟子たちに、そして、今もなお今日の我々にも望んでおられる最も大切なものは何であったかを今日と来週にまで一緒に考えて、教えられ、しっかりそれを掴み、握ってこの新年も走り続けて行きたいと願います。

<1. 本文背景 >

マタイの福音書12章では、パリサイ人たちと律法学者たち(全員律法に通じた人たちが)結託して主に挑戦します。そして、マタイの福音書16章ではパリサイ人とサドカイ人(今日までもこの二つ宗派は敵対関係である)とが結託して、主がメシヤであるというしるしを見せてくださいと要求します。おそらくエリヤの時のように天から火が下ったり、ローマの軍隊を滅ぼしたりするしるしを要求し願っていたかも知れません。今までイエスキリストがなされた様々な奇跡は認めることができないというのです。主はこれまで、悪霊どもを追い出したり、歩けない人や目の見えない人、ツアラアトに冒された人を癒されました。これらは旧約の聖書のイザヤ書のメシヤが来られる時の御言葉(イザヤ書61:1-3)の成就をイエス様がなさいましたが、彼らはそれをするしとして受け入れることができませんでした。主は姦淫の時代、悪い時代はしるしを求めていると咎められました。主はヨナのしるし、つまり十字架の死と三日後の復活のほかにはしるしがないことをはっきりと語り、約3年間の働きを終え、十字架に向かって歩みをエルサレムと移し始める前に、目に見える他の奇跡によらず、十字架の苦難と死をいよいよ弟子たちに予告させ、弟子たちの信仰と心構えを準備させようとしておられます。

<2. 本文の内容 >

イエスキリストはガリラヤでのお働きを終え、十字架を負うためにエルサレムに向かって進まれました。その最初に立ち寄った、ガリラヤ湖北方のピリポ・カイザリヤという小さな村で、イエス様が弟子たちを呼び集めて質問されます。

「人々は人の子をだれだと言っていますか。(13節)」弟子たちはこのように答えます。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだという人もあります。また他の人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。(14節)」人々はイエス様のことを、当時ヘロデが殺したバプテスマのヨハネがよみがえったとか、「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす(マラキ4:5)」というみことばのエリヤだと言っています。すると、イエス様はたずねられます。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。(マタイ16:15)」

その時、弟子ペテロは「あなたは、いける神の御子キリストです。(16節)」という信仰告白をします。ペテロのこの答えにイエス様は17-18節にこう言われます。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。18節では「わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」と。

(1)信仰告白が大切です。(来週②主の教会中心とした信仰が大切です！)

①『常に信仰告白を保ち、表すことが大切です。』

今日本文の場所はベツサイダの北約40キロ離れていたピリポ・カイザリヤという町は当時異郷徒の町であり、ピリポ・カイザリヤにはローマ皇帝を崇拝した神殿だけではなく、ギリシャのパン(Pan)神をも崇拝していたところでもありました。イエス様は人間崇拝、偶像崇拝で盛行していた有名な町であるこの偶像の町「ピリポ・カイザリヤ」まで弟子たちを連れて来られ、ここで「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」と訪ねているのです。少数の人数であり、周りには勇壮ではでやかなローマ皇帝を崇拝した神殿と比べるとイエス様と弟子たちの姿はみずぼらしかったのではないのでしょうか。この町にはまったくイエスがいらなさそうなところでした。イエス様はそこで弟子たちに信仰の告白を望んでおられ、訪ねたわけです。「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」

愛するみなさん！この環境ってとても日本と似てませんか。あちこち偶像崇拜する場所が多く、教会の規模より、はるかに大きく見えます。ある統計によりますと、登録されている神社だけでも8万箇所、お寺が7万5千箇所、登録されていないところまで含めると、20万箇所が以上であります。反面同じ信仰をもっているクリスチャンは少ない(1%未満)、イスラム国を除いてアジアで単一民族の中で日本は最大未伝道国です。なので、一週間生活場や仕事場でクリスチャンと出会うのはなかなか難しいことではないでしょうか。そして、周りの日本のこの社会でも別にイエスキリスト無しでも人々は普通に全然問題なさそうに生きているかのように見えるのではないのでしょうか。

クリスチャンとして、少数で、小さく感じられませんか。しかし、失望しないで下さい。今も生きておられる主がみなさんに尋ねると何と質問されると思いますか。そうです。「**今あなたがたはこのような環境の中でわたしをだれだと言いますか。**」でしょう。ペテロが「**あなたは、いける神の御子キリストです。(16節)**」と周りの人々から動揺せず、環境と妥協してない短いですが、とても純粋で大胆な信仰ではないのでしょうか。主はわれわれにこの信仰告白が最も大切であることを教えて下さっています。みなさんは今イエス様をだれだと告白しますか。

主のために何かしようとする前に、何よりもまず我々が保つべきことがこの信仰告白であります。

イエスキリストを信じた者は、どこでも、だれに対しても、その信仰を告白ができなければなりません。初代教会の聖徒たちは、一歩、間違えれば連行され、処刑される境遇であっても、家庭や職場で、イエス様が自分の救い主であることを喜んで確信を持って伝えました。今日我々はいかがでしょうか。せっかく教会に毎週通っているのに、自分の信仰を告白することを恥ずかしいと思ったり、確信を持って証しできないなら、何よりも主イエスキリストを悲しませることではないのでしょうか。

②『信仰告白をするためには神の助けと恵みが大切です。』

今日の本文17節には「**このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。**」と書かれています。イエス様はペテロに『**バルヨナ**』と言われました。この意味は「ヨナの子」の意味で、バルヨナシモンは「漁師ヨナの子シモン」のことです。この言葉は、ペテロの信仰が人間として受けた教育や自分の理性、判断、人間の知恵や経験、洞察の結果によるものではなく、神の特別啓示によるものであることを、対照して示しています。『**幸いです**』というのは、この神の啓示に預かったことをの祝福を指しています。ペテロがイエスがキリストであり、生ける神であると信じ、告白できたのはこの真理を知らせ、信じられるようにして下さったのは父なる神めぐみと啓示によるしかできないことを教えて下さっています。エペソ人への手紙2章8節には、「**あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。**」

③『自分のみずからの信仰告白が大切です。』

ローマ10章9-10節によると「**なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。**」

今日の本文ではイエス様が再び「**あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。**」尋ねられます。

もうすぐエルサレムへ受難の道を歩まれるイエス様は共に過ぎて来た弟子たちの告白を聞きたいと望まれました。その時、弟子たちの中ペテロが「**あなたは、生ける神の御子キリストです**」と告白したように、今もイエス様は「**他のだれかの**」告白ではなく、「**自分の**」告白を求められます。だれから聞いた、他の人の告白ではなく、自らイエス様への信仰告白を主は望んでおられます。なぜなら、そうしなければ、キリストに永遠の命を頂くことができないからです。

イエス様の弟子でありながら、イエス様の復活を疑っていたトマスがイエス様と出会ってからこう告白しました。「**トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」(ヨハネ20:28)**」

第一ヨハネの手紙4章14-15節には、「**私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにいます。**」

④『信仰告白の内容が大切です。』

今日ペテロのこの短い信仰告白にイエス様は喜んで下さいました。まさしくイエス様が望んでいた告白だったからだと思います。

「**あなたがたはわたしをだれだと言いますか。**」この主からの質問にあなたはどうか答えられるでしょうか。ある方はイエス様はただすばらしい方とか、あるいはまるで映画のスパーマン見たいに困っている時に助けを求められる方とか、愛の方とかで言えるかも知れませんが、実はペテロのこの短い信仰告白の内容に重要な信仰が全部含まれています。

まず、『**生ける神の御子です**』という告白の意味には神の神性が強調された表現で、周りの異邦の死んだ神々と対照になる信仰であります。イエス様ご自身が自ら永遠の自存される神で、命を付与される命の根源となられる方であることであり、過去と共に現在、未来にも生きておられ臨まれる神であることを意味します。

つまり、イエス様！あなたこそ、パンの神でもなく、カイザルでもなく、預言者や先駆者でもなく、実に、終末の主役のメシヤ、生ける神の御子キリストですという告白であります。『**生ける神**』は死なせる神、死んだ神すなわち、すべて偶像に対比した表現であり、ご自身の中に永遠に生きる命の源のあることを示す。『**神の御子**』は、キリストと父なる神との深い関係を表し、また神の御子はすな

わち神であるとしてその神性を示します。

我々が信じている主イエスキリストはこの世のさまざまな神々とは異なって、今もこれからも生ける神であり、真のメシヤであります。そして『キリスト(Christ)』はヘブル語でマシアハ・アラム語メシハで、いずれも「注がれた者」を意味であります。すなわち、イエス様は神が任命された偉大な職務を遂行のために油注がれた方、来るべき救い主であるとの信仰告白がここに含まれています。ヘブル語で‘メシヤ(Messiah)’と意味は“油注がれた者(レビ記4:3)”であり、イエス様ご自身が神の油注がれた方である意味です。旧約聖書では王、祭司長、預言者を任命する時、油を注くように実行されました。このようにイエスがキリストであるというのは、父なる神からイエス様に権能の地位とそれを行行使する一切の権利を移譲された真の救い主である事を表します。大事なのはまず、個人の資格より、12人の弟子たち、もっと進んで全聖徒たちに問われていることでもあります。このペテロの信仰告白が人間の知恵によったのではなく、神の啓示の光によって出来たことでもあります。

まとめると、このペテロの信仰告白は次のような意味があります。一つ目は、ペテロがイエス様をキリストつまり、メシヤとして告白したのは、イエス様の身分を証明したことであり、このイエス様こそ、神の御心を成就させるメシヤであることを表している告白の内容(民24:17)であります。またペテロがイエスさまを神の御子である事を告白したのはイエス様の神の神性を明らかにしたことでもあります。そしてこの信仰告白にはイエスキリストが神と一体であられると同時に真の人間であられた事も教えられます。(ヨハネ10:30, 第一ヨハネ4:2)。

⑤『何よりも信仰告白が最も大切です。』

愛する信仰の家族のみなさん！イエス様は弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか。(13節)」と尋ねられます。周りからはバプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。彼らは御言葉に根拠をおいていたならば、御言葉の預言通り成就されるメシヤなるイエスキリストを少しでも気付いたかも知れません。しかし、群衆はただ周りのうわさや人々の話に左右されるだけでした。

深くイエスキリストがどんなお方であるか考えた事がないかも知れません。ただイエス様が行われたイエス様の驚く力と奇跡だけに好奇心を持っていたかもしれません。しかし、イエス様が行われた力の根本的な理由を考え、神の御国を示して人類への救いの計画を教えられた真のメシヤ、キリストなるイエス様を知ったならば、もっと正しい告白ができたことでしょう。

もちろん、キリスト教の信仰はある面では体験の信仰とも言われています。今も主は生きておられ、共におられますからいろんな神の力を体験することは可能でしょう。

反面、イエス様を信じる過程で、人が驚くような劇的な体験や事件、変化を求めたり、もし今まで 信仰生活の中で自分にはそういうことが起こらなかったから気落ちする必要は決してありません。我々は今日の本文を通して教えられるのは、三位一体となる父なる神、御子主イエスキリスト、聖霊の神の最大重要視しておられるところは劇的な体験ではなく、ペテロがしたような信仰告白であるからです。なぜなら、この正しい信仰告白がなければ、決して他に救われる道がないからです。

ローマ10章9-10節「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

⑥『言葉だけではなく信仰告白どおり生きる事が大切です。』

今日の本文でペテロはとて主の御心になかった告白をしますが、それでペテロがすべてが完全にかわったわけではありません。主はご自身が信仰の土台となり、教会を建てると宣言される時、主のその真の意味を深く悟られなかった弟子ペテロは浮かれてしまいました。そうでなくてもペテロ自身が一番の弟子だと浮かれていたのに、御国の門の鍵まで自分に与えると主から言われたのですから、どれほど喜んだことでしょうか。ペテロは主の教会を建てることをあんまり理解せず、ペテロという個人の人の上に主の教会を立てれるかのように、カトリックではこの部分を大勘違いで解釈してしまい、ペテロを初代教会の教皇として立たせ、教皇を通して出なければ御国に入る事はできないと言いました。

なので、今日もローマにある聖ペテロ広場に行かれますと、ペテロが御国の門の鍵を持って立っている象があります。ペテロがイエスキリストにほめられて有頂天(うちょうてん)になっていた時、イエス様は公生涯で初めて、十字架の苦しみを受けて復活しなければならぬことを予告されました。主は後2ヶ月の後には十字架の苦しみを受けて復活しなければならぬことを予告されたのです。

イエス様はこの後、3度にわたって繰り返し語られました。

この地に主の教会が誕生するためには、まずイエスキリストが十字架の苦しみを受けて死んで、復活しなくてはならず、初臨のイエス様の栄光は十字架の苦しみの跡に現れることをはっきりと教えられました。

しかし、まだ弟子たちは、それを理解することができませんでした。もうすぐ王座がイエスキリストに与えられれば、国をとこしえまで保つと言われた約束通りに、イスラエルが回復してローマから独立すれば、自分たちが要職を占めることになるという考えだけで

一杯でした。

そのあげく、弟子ペテロが「ついさっきまで、ものすごいことが起こるような話をされていたのに、主が死なれるんですって。主よ。そのようなことは絶対に起こってはなりません。主が死なれば、私はいったいどうなるのですか。そんなことが決してあってはいけませんよ！」と思いをどめようとしますが、主は「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている(16:23節)」と叱責されました。わずか数分の間に、このように天国と地獄を行ったり来たりした人が歴史上にいたでしょうか。

みなさん、ここで「人のこと」とは何でしょうか。それは「私のこと」です。つまり、自分のことだけを、自己中心的に考えます。表ではイエスキリストのことを心配して、愛して話してはいますが、ペテロの心の奥底には主が死なれば、すべてを捨ててイエス様だけにすべてをかけてついて来た“私”はどうしたらいいのかと不安になったペテロでした。そのため実は今自分のことだけを考えているのです。サタンは神のことを思わせず、自分のことだけを思わせます。

それでは、「神のこと」は何でしょうか。当時ユダヤ人が考えたように、イエス様が王冠をかぶってローマ帝国を打ち破り、イスラエルを独立させ、解放させるのではなく、十字架で激しい苦しみを受けて血を流し、死なれることでした。

神の御子であられる主イエスキリストの十字架の死によって、全人類が救われる贖いの御業を成し遂げられ、主の教会が誕生させることでした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日わたしたちが生きている時代はポストモダニズム(Postmodern)時代だと呼ばれています。絶対の真理、唯一の神、ただ一つの救いの道などをこの世は認めようとしません。それより混合主義、相対主義が流れています。そして、我々の回りはまるで現代版のピリポ・カイザリヤを見ているようです。いろんな神々の中で唯一イエス様のみがキリスト、メシヤであられるイエスキリスト、真に生きておられる神であることを信じ、告白する信仰告白こそ、一番救い主なる主イエスキリストが望んでおられる事であり、今日生かされて、さらに主の栄光のために用いられる我々が一番大切に保っていくべきものではないでしょうか。この時間、今も生きておられ、共におられる救い主なるイエスキリストがみなさんに尋ねておられます。「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」と。

始まった新しい2015年！また一年生かされる機会が主から我々に預けられています。

また今年一年中どんな環境に置かれても、どんな時であっても我々の信仰告白が揺るがず、疑わず、忘れないで、生きておられ、共におられる主の前で信じ、この信仰告白を保って行きながら今年がさらに幸いな年となりますように切に祈ります。

そして、神の恵みにより頂いたこの信仰告白を大事にし、周りにも分かち合う事に恥ずかしく思わず、大胆に証していく事により、みなさんを通して、今年中1人の魂も等しく真の救い主を知り、信じ、救われる神の大なる祝福と御業が起こされますように主イエスキリストの御名によって祝福します！アーメン！